

保母となりし最初の  
週間

某女

十一月九日 土曜日 晴天

十一月九日 土曜日 晴天  
 觀察。外遊の時、寧子、仲一郎、英、捨子、愛子の六兒と共に砂遊びを致しました。有坂は獨立してお盆を製し、獨りで喜んで居ます。あまり團体的の遊びを好まぬ風も見受けました。しかし智力は大分發達して居て、しつかりとして少しもおちけて居りません。金子伸一郎は注意が永續せず、一寸土を掘つて直ちにあきたらしくて、ドングリを拾ひに行きました。又それにも飽きましたと見えて、小石や小葉を拾つて持つて来て、先生上げませうといひます。それから又一寸土を掘り初めて、遂にまたまつたものを作りませんでした。皇山は幼稚園の御山を型らんとて作業して居ました。小林はそのお山の上に家を建て、お料理をこしらへて遊はんといひ出し、瓦を拾つて建築を初めた處が、皇山は泣き出して走り去らんとしまし

た。よほど神經過敏と見えますから、皇山をすかし、小林には幼稚園のお室か建つて居る位置に、お家を型つて建築なさいと命令しましたが、よく従順に聞きました。小林はなかく思想家でありまして、立派なものを作りました。その大体は瓦の片で家を作り、金子の拾ひ集めました木の葉を、その中に布いて壁となし、煉瓦の上せてテーブルだと云ひ、その上に小葉に砂をつゝみ、オムレットのお料理だといつて喜んで居ました。それから、中庭を作り枯葉をさして垣根と呼び、門の戸を瓦で作りに作り、開け閉ちをしてゴロ／＼チリン／＼と云つて居ます。何故垣根を作るかと問ひますと、盜賊が入らぬためだと答へました。小林は思想家になると共に熱心なる實行家であります。この建築の材料は、自分か集取して人を使用せず、作業中にも困難を排して一生懸命に努力しました。中島と桐島とは、お山の下に小池を掘つて、その周圍に旗を立てました。中島の思想はよほど幼稚園と見えて、桐島の意匠のまゝでありました。今日の談話は私がやりました。活材は八藏と神様で、

その目的は欲張りをいましめることであります。大々的の失敗を見事にやりました。豆細工は先生がせられました。小林は他兒よりも複雑なる形のもの、即椅子を作りましたが、思ふ様に出来ず、それには他兒が簡單なものを二つも三つも作つて居るに、自分は初めのが出来上らず、普通ならば泣き出すかも知れない場合であります、一生懸命に傍目もせず續けて居ます。意志の強い落ち付いた兒と朝認めましたから、かまつてやらすに見て居ました。先生が來られて手傳つておやりになりました。その時にも先生のなさるのを熱心に見て居ます。桐島は「オカシナ顔をして見て居るよ」とからかいましたが、いかりもせず、一寸笑つて又熱心に見て居ました。その様子が自分は出来なくて残念だとか耻しいとか、思ふ様子はありませんでした。未樂しい子と思はれます。

私との談話につきて  
 所感。私の談話につきて  
 先生のは批評は左の通りでありました。語尾の不明なこと、圖の使用方法が單調であつたこと、幼兒の注意を集めるには口を喋々するより、

唱歌でもして落ちつかせた方がよいとの事、談話進行中幼兒の發言の處置はなるべく取り上げる主義でやるべき事、談話内容が抽象的よりも實際的である様にと、丁寧親切に御指南下されました。私は如何にもと存じまして、將來大に注意せんと思ひますが、私の所感を挙げます。

先生はよほど御遠慮遊ばして、おひかへ下さりはすまいかと存じます、私の談話は實になつて居ませんでした。

第一、立場が誤つて居りました。談話は幼兒のためにし、教生のためにせぬのかあたりまへでありますに、私はこれの反對的立場に居つたことは事實であります。その證據に幼兒が知つて居るといひました、イヤおまへは知つて居てもマーお待ち、私は予案通りにやりますといはぬばかりに、幼兒の要求を知らぬ顔にして進行しました。即教生のために談話するので、子供のためにしたのではありません。これが最大欠點であります。

第一、幼兒を知らずに話しをした事が實に大膽でありました。幼兒といふものは何でも活動したい、

自分の思想は機會あるたびに發表したいと思つて居るに、その事を全く忘れたものですから、話の途中である／＼發言しますのを、大に吃驚してうろたへてしまひました。

第三、元氣がなかつた事が大によろしくありません、幼児は實に活氣に充ちて居るのに、それに對しては教生もよく調和しなければならぬ筈を、心配らしい元氣のない態度で談話しました事が實に遺憾でありました。

第四、幼児の思想に後れて進んだ事もたしかな事實であります。幼児の心機しんきの早いことはよく聞いて居りながら、常に後れて居りました爲に、幼児が先きの事を云ひだすたひに、その處置を誤り且、迷惑らしい顔付をして見せました。それで幼児が飽きない様に願ふは、木によりて魚を望むと同一であります。

第五、話にシツコイ處がありました。幼児は實に單調なものでありますに、話の終りに面白かつたでせうとか、教訓めきたる事實を反復するとかし、彼れ等を感情で導くよりも理性によつて導か

二十二  
んとつとめた形跡がありました。私は幼児に對するお話は語調を子供らしくして、自分寧ろ第二位ではなさかと思ひました。

### ● 女子教育の要點 (建部遷吾)

現代の女子教育は一般に女子の女性的性質を矯めることに於て、餘りに全力を盡しはせんかと思ふ、儒教の理想に於ても天命之謂レ性、率レ性之謂レ道、修レ道之謂レ教と云つてある、詰り教育と云ふものは、人性の赴く處に従つて之を基き邪路に陥らしめざるやうにして行く事が普通一般の道筋であつたものらしい、然るに世には西洋の哲學の或る學派、殊に印度の婆羅門教の或る派、就中厄夜邪派の如き、譯も無く禁慾を行ひ、難行苦行をして一生を終り、それを以て教育の極意でありとする者がある、明治の女子教育は時とするに厄夜邪哲學を實行して居るやうに我が輩の眼に映し、ことがあつて、舊幕時代の教育は極めて狭然なるものである代り、極く選まれたる女子に限つて居たので、天然に相當の資格を備へて居つたが、今日では士農工商華土族平民皆平等に教育を受けることになつたので、昔なら入學を拒絶されそうなる賤しい職業の娘までか、滔々として月謝を拂つて女子教育の機關の中に入つて來るのであるから、女子教育を受ける處の者の平均成績が非常に下落せざるを得ぬと云ふ事は自然の勢である、故に我輩は第一に教育を施し、第二に人の中に就中淑女の教育を一般に施されん事を望む。